2017,10,8　　中央分水嶺・歴史探訪・自然探訪　　**大谷山トレッキング記録**

良いお天気。マキノ高原の登山口までは、少し暑く感じ夏のようでした。樹林に入ると木漏れ日が素敵で、心地よい微風を感じながらウォークを楽しむ。すばらしいブナ原生林に入ると、空気・風がなんとも言えない心地よさに浸る。最高・・・。キタヤマブシの花がアチコチに咲いてる。じっくり写真を撮りながら楽しむ。寒風で眺望を楽しみながら昼食。ここから大谷山までは、ススキの藪こぎもありで、足元を確認しながら進む。途中、アチコチ、キタヤマブシのお花の群生地があり、傍に寄り写真を撮ったり、じっくり観察。姫路からのMさん、「私、初めてです・・」と大喜び。下山は、石庭集落へ。今日は、山栗を拾ったり、ムカゴやサルナシの実を収穫したりと自然を満喫。栗ご飯やムカゴご飯・サルナシのデザートなどお楽しみください。帰りに道の駅藤樹の里あどがわに寄りお土産購入など楽しみました。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆歴史　「鞆結駅の比定地」は、石庭説が有力

平安時代（927 年）に編纂された「延喜式」によれば、奈良時代には、北陸への交通の重要地点であったマキノ地域（滋賀県高島市）に官道が通り「鞆結駅」が設置されていた。この鞆結駅から最短距離で敦賀松原駅に至る黒河越え（白谷越え）がある。しかし、琵琶湖の水運の拠点である海津・大浦・塩津からの連結によって鞆結駅―小荒路―野口―路原―国境―山中―駄口―追分―疋田―市橋―小河口―道口―敦賀に至るコース（七里半越え）が官道となったと思われる。黒河越えは、七里半越えの間道になっていた。「鞆結駅の比定地」は、鞆結北鞆結・大道東・大道西」などの地名が残る「石庭地区」と「鞆結神社」が現存する「浦地区」の二つの説があるが石庭説が有力である。黒河越えは、別名白谷越えと言われ、白谷地区は、石庭と黒越峠を結ぶ一直線上にあることから石庭説が無理がない。また、鞆結神社は、石庭にあったが管理上浦地区に移動したと伝えられている。

◆トレッキングの様子

メタセコイアの並木

マキノ高原を行く

登山口から眺望を楽しむ

眺望

ブナ原生林①

ブナ原生林②

ススキの草原

大谷山山頂

大谷山からの眺望

サルナシの実の観察

◆自然観察

キタヤマブシ①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

サルナシの実

シロヨメナ

ツルリンドウの実